

2020 年度
マンスリーレポート No. 69

12月1日、日本医学教育評価機構(JACME)の評価報告書(最終版)と認定結果を内村学長に石竹教授と安達が報告し、当時の受審委員会(チームK)のメンバーにメール配信した。医学部役職者選挙が行われ、山田が医療センターで選挙管理委員を担当、第12回筑後地区リハビリテーション研究会(Web)で「外来でよく見る脊椎疾患の薬物療法」を講演した。

12月2日、PCCE部会が開催され、山田と教務課が作成した資料に沿って学生と審議し、詳細がほぼ決定した。今回は医師105人・専門職28人・模擬患者11人が関与する。

12月3日、PCCEの臨床技能訓練(トレセン)のステーション責任者が集まり、山田が作成した資料に沿って川山教授(統括者)が全体像と評価について説明した。感染拡大に伴い、学生の会食が「5人以下・2時間以内」に変更された(医学部三役会議)。

12月4日、共用試験CBTの再試が行われ、第4学年16人が受験し、トラブルはなく、柏木がサイトマネージャー、安達が監督(2ブロック)を担当した。JACME評価報告書の概要をニュースレター(学内瓦版)として、講座と部署に配布し、電子掲示板に掲載した。

12月5日、山田が第42回日本疼痛学会(Web)のミニシンポジウム「侵害受容性疼痛の概念の整理と術後痛治療ガイドライン作成に向けて」で座長を担当した。

12月5日～6日、トレセンで日本母体救命システム普及協議会公認講習会(J-CIMELS)が開催され、片山が蘇生シミュレータ使用の支援対応を行った。

12月7日、PCCE(臨床実習前演習)が始まり、山田がオリエンテーションを担当した。

12月8日、山田が第一三共Web講演会「疼痛治療を考える in 筑豊」で「脊椎疾患由来の神経障害性疼痛に対するアプローチ」を講演した。

12月9日、教授会議が開催され、卒業判定で81人が決定、38人(32%、去年は41%)が再試となり、臨床実習(第4～5学年)は精神神経科と総合診療科が4週に増え、消化器外科が消化管外科と肝胆膵外科に分離(各2週)、血液/腫瘍内科と医療安全/感染制御科も分離(各2週)、合同学習会(土曜)は第4学年が再開(4～7月)、第5学年が施行せずとなった。柏木が文学部FD/SD講演会(教授会終了後)で「教育や学習の見える化と教育力の重要性」を講演した(John Hattie『Visible Learning 教育の効果』の観点から考察)。人体臓器3Dプリントモデル製作技術について、片山と岡部准教授(消化器内科)が医療材料メーカーに助言を行った(オンライン会議)。

12月10日、柏木が電子シラバス講習会(FD/SD)を行った(11/25に続く2回目)。

12月11日、カリキュラムについて、山本教授(カリキュラム委員長)から相談があり、安達・秋山・前原さん(教務課)が対応した。「2022年度 大学案内」の写真撮影(広報室)に山田と片山が参加した。片山の「臓器外形3Dプリントモデルで触覚を再現するhybrid型VR」が専門誌『バイオインダストリー』に掲載された(BIO INDUSTRY 2020;37:75-84)。

12月12日～13日、トレセンで病棟看護師のOSCEが実施され、片山がシミュレータ使用の支援対応を行った(事前勉強会を含む7日間)。

12月14日、PCCEの症例報告発表会で山田がスーパーバイザーを担当した。行動科学(I/II/III)の授業計画について、安達が「講義ご協力をお願い」を70講座/部署に配布した。

12月15日、PCCEの症例報告発表会で安達がスーパーバイザーを担当した。柏木が過去2年間の学生データを解析し、基礎医学CBT(第2学年)と臨床医学CBT(第3学年)の成績から共用試験CBT(第4学年)のIRT値を予測する計算式を開発し、教務委員長に提出した。山田が第6回早良区医師会学術講演会「疼痛コントロールのこれからを考える」(Web)で「脊椎疾患由来の慢性疼痛に対するアプローチ」を講演した。

12月14日～15日、トレセンで看護総合演習(看護学科の第4学年)が実施され、片山がオンライン配信の対応を行った。

12月16日～18日、PCCE(3グループで3日)で山田と片山が臨床技能訓練(トレセン)、安達が専門職連携教育(職場訪問)と問題志向型症例検討(POCD)の消化管外科を担当した。

12月17日、柏木が過去2年間の学生データを解析し、卒業試験と国家試験の点数(%)が相関することを確認し、卒業試験A/B(Cの追加は影響なし)で国家試験の点数を予測する計算式を開発し、再試選抜や卒業判定に有用なスコアとして、教務委員長に提出した。

12月21日、専門職連携教育(IPE)に参加した21部署/職種に職場訪問PPTを配布した。教務委員会が開催され、共用試験CBT再試の結果(15人→8人がIRT<440)が審議された。

12月22日、山田が整形外科の専門医試験対策講義(Web)で専攻医(13人)に「電気生理学的診断」を講義した。

12月23日、教授会議が開催され、第4学年の進級判定が審議され、共用試験CBT再試はIRT \geq 420が合格になり、総合評価の結果、留年者は1人になった。

12月24日、アクティブラーニング部会が開催され、来年度は学生を見守るチューターを学生のグループ活動を支援するファシリテーターに変更し、課題を新型コロナウイルスにすることが決まった。コロナ禍で恒例の教務教育忘年会の代わりに教育センター昼食会を行い、換気して着席のままオンラインで弁当を楽しんだ。新型コロナウイルス感染拡大(第三波)に伴い、大学病院の災害レベルがⅡに上がり、学生は部活や食事会が禁止され、1/4～1/15は健康観察期間で登校不可・Web講義・オンライン臨床実習となり(2001年から続いた白衣授与式は中止)、1/18以降の登校再開・対面授業となった。

*クリニカルスキル・トレーニングセンターで開催されたイベントは次のとおり。

12月2日、CVカテ挿入トレーニング(救命医師)

12月3日、看護師OSCE前勉強会(病棟看護師)

12月5日、日本母体救命システム普及協議会公認講習会リハーサル(J-CIMELS)*

12月6日、日本母体救命システム普及協議会公認講習会(J-CIMELS)*

12月7日～9日・10日・12日～13日、看護師OSCE(病棟看護師)*

12月9日、臨床実習(医学科5年):ダヴィンチシミュレータ体験(呼吸器外科)

12月10日、外来看護師会議(外来看護師)

12月11日、ロボット支援下手術シミュレータトレーニング(耳鼻科医師)

12月11日、患者急変時対応勉強会(病棟看護師)

12月11日、看護学科 看護総合演習 事前準備(医学部看護学科)

12月11日、医学科パンフレット写真撮影(医学部教務課)

12月14日、臨床実習(医学科5年):ダヴィンチシミュレータ体験(呼吸器外科)

12月14日、15日、看護学科4年生:看護総合演習(医学部看護学科)

12月16日、17日、18日、PCCE(医学部医学科)

12月17日、ロボット支援下手術シミュレータトレーニング(外科医師)

12月21日、臨床実習(医学科5年):VR内視鏡シミュレータ体験(消化器内科)

12月21日、臨床実習(医学科5年):ダヴィンチシミュレータ体験(呼吸器外科)

12月23日、看護技術セミナー(福岡県看護協会)

12月29日、ロボット支援下手術シミュレータトレーニング(外科医師)

*は土日の開催

文責:安達洋祐

